

第3回「これからの学生生活をともに考え、見守る研究会」開催報告

(11月26日理事会報告より抜粋)

1. 日時・場所

9月20日(火)15時～17時公開研究会、オンライン zoom 開催 公開研究会

2. 出席者 委員・事務局 15名＋公開参加者 43名、合計 58名

- (1) 委員・事務局出席者(下線欠席) 15名
学生2名、教員4名、マスコミ等3名、専務理事2名、事務局4名
- (2) 公開出席者(委員・事務局以外) 43名
学生2名、教員6名、大学職員1名、大学関係2名、官公庁3名、大学生協役職員(除く事業連合)・役員7名・職員3名、大学生協事業連合職員4名(東北4)、大学生協共済連1名、マスコミ2名、リスク講座4名、取引先2名、全国大学生協連連合会5名

3. 議題と内容

メインテーマ:with/after コロナ 授業の現在地～コロナ禍の変容と今後の展望～

<公開研究会>

- (1) 第3回研究会について (2) 委員報告と委員ディスカッション、全体ディスカッション
- (3) コロナ禍の大学生活アンケート、研究会広報、次回研究会について

4. 主な発言内容

- (1) 学生の意見
 - ・インフォーマルな場でのつながりが無く、レポートも他の人がどこまで頑張っているか分からなかった。やり方が正しいのかも含めて、他の人と確認ができず大変だった。授業も、他の人がどう取っているかが分からず、対面授業になって、ノートもPCでメモを取っていて、皆こうやっているのだと分かった。
 - ・一人でやっているのどこまでやるのが良いか分からない。全部の授業を真面目にやろうとして、精神的に結構辛くなる。
 - ・レポートの書き方もそんなに教えられていない中、学生の繋がりもなく、かなり苦しかった。
 - ・(授業や課題への)教員からのフィードバックは絶対欲しい。大学のシステムが分かりにくく、先生のフィードバックにたどり着けないと、どうレポートなど改善していいか分からないし、フィードバックを見つけようとしなくなってしまうので、学びの質が下がってしまう。フィードバックが見やすくなると、教授と学生のコミュニケーションも取りやすく、学生も安心感に繋がる。
- (2) 教員
 - ・プログラミング授業で、学生に課題を出して、次の授業までに必ず採点してコメントをつけて返す。個別フィードバックをして次の授業を迎えるので、しんどい。オンライン授業を準備していた。
 - ・フィードバック自体は、オンライン・対面に関わらず授業としては凄く大切。
 - ・プログラミングやITは、個別に対応することがそれぞれの人を伸ばすのに一番良い科目。見てくれる、自分をフォローしてくれていると思うと、やる気を失わずに済むのかな、と思います。
 - ・大学も、自分が何の為に存在するのかについてきちんと考えているのか。その学問は要るの？と学生に思われた途端アウト。世の中で今こういうことをしないといけないうんだ、との兼ね合いで決めているのか？は思う所。プログラミング授業も、本気で学ぼうとしているいろんな学部の学生(半分が文系)が増えてきた。世の中が変わってきた。
 - ・対面が多くなってきて、オンラインでもグループに入れられない、連絡が取れないなど、コミュニケーションが上手に取れない学生への対策は、どの学部でも大事。
- (3) その他
 - ・学生個人個人の視点から、今どのような問題を抱えて、どうしたらいいのか、ということが問題になる。一方、大学という組織、仕組で、オンライン授業を考える立場から、次の1、2年生にどのように改善していけばいいのか問題課題になる。
 - ・コロナ禍における「孤」に対応するべく「個」に着目した手厚いフォローにコストと手間をかけることはありうる。
 - ・2020年度入学、今の3年生に対して、見守るという委員会で何かできることはあるのか(ヨコの問題)。これからの1～3年生に、良い方向に持っていくのに何が出来るのか(タテの問題)という、2つの視点に分けて課題を検討すると問題がより明確になるのではないかと。

5. 第4回に向けて

- (1) 事務局会議 (2) 報告者打ち合わせ (3) 開催案内
- (4) 第4回研究会

12月9日(金)17時～19時 オンライン開催。別紙開催案内。

テーマ：『学生相談から見える学生の心身の健康と今後の支援課題』

報告委員：名古屋大学教授 鈴木 健一 先生 学生相談センター長